

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773200613	
法人名	社会福祉法人ふたば福祉会	
事業所名	グループホーム せんだんの家	
所在地	〒974-8284いわき市南台3丁目1-1	
自己評価作成日	平成 27年 10月 20日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉ネットワーク
所在地	974-8232 いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成 28 年 1 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、チームワークがよく、職員が明るい 2、連絡ノートや会議(I/M)等で情報の共有化に努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は避難後、環境が変わり動揺する利用者に根気よく寄り添い話しかけを工夫し、思いや意向を把握しケアにつなげている。 施設長は利用者と積極的に関わり、管理者・職員のチームワークも良く、日頃からケアについて話し合い一人ひとりの利用者がその人らしく暮せるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・H24.1事業所再開で職員も新たになり、全員で自分達が高齢者になった時を考えて作りました ・目の付く箇所に掲示し、実践するようにしています	管理者と職員は環境が変わったので、理念を話し合い、地域の中で安心して生活できるよう新たに作成している。利用者が笑顔で暮らせるよう、一人ひとりに接する時間を設け話を聞くようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	・再開当初は積極的に「ひだまり」で行われたイベントに参加、次第に足が遠のきました。仮設内の町行事(ダルマ市、盆踊り)では友人、知人との交流を図り、GH行事には仮設内の方への参加の声掛けをしている	仮設住宅内という環境の中で地域の方との交流は難しいが、近くの教会の方がコーラスを聞かせてくれるなど交流をしている。利用者が一人歩きした時など、知らせて貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・仮設内の住人の相談、話し相手をしている ・ひだまり(社協)が連休時は、その間の対応依頼があり協力している(件数はなかったが)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	・再開後は一度も開いてません ・日々の対応に追われ、余裕もなかったが、施設長との相談で、「仮設にしているうちは・・・」と開催しませんでした	震災の避難後は困難が続き、できないでいたが今後は開催できるよう取組もうとしている。	市・町・家族や地域の方の協力を得て、会議を開催できるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・再開時から電話での情報交換をしていた ・時々訪問されたり、GH行事への参加をして頂いています ・広報や入所状況報告書の提出	入居時の申請やわからないことを聞いたり相談している。市から連絡があり、グループホームの管理者会議に参加したり、広報を届けて貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員の間で窓や玄関から道路や仮設内へ徘徊し、どこでも寝込んでしまう危険性があり、事後だったが、ご家族の承諾を得て、フロアに職員が不在になる時は玄関に施錠、職員間で周知し、フロアに戻れば直に開錠 ・方針としては拘束しないを実践する	職員に拘束はしない事を意識づけると共に、新人研修会に参加し正しく理解できるようにしている。ことばの拘束についても、研修の内容を話し合い、気付いた時はその都度声かけし拘束しないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・先日の研修会では、言葉による虐待について受講、会議で報告し、虐待防止についてお互いに注意し合う ・他施設でのニュースを聴くと胸が痛む		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修会を受けた職員が報告 ・幸い、当ホーム利用者様のご家族関係は良く、活用に至りません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・ホームを一旦見学して頂き、次いで入居関係書類などを説明し、日を改めて契約をしている ・改定時はその都度に説明し理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・時々利用者様全員に何気なく意見や希望等伺いできるだけ希望に沿う様にしています ・ご家族へは、面会や行事参加の際に伺ったり、玄関に意見箱を設置しています	寝たきりにならないよう歩かせて欲しいとの家族の要望があり、日常的に体操をするようにしている。面会時やお便りで利用者の状況を知らせ、意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	・常に問題意識をもって仕事に取り組みさせている ・改善要望等があれば何でも意見具申する事をお願いしている できるものは全て取り上げている	管理者は問題を提起し、職員の意見や要望を聞くようにしている。オムツやパッドの使い方について意見があり、すぐ実践し結果を話し合い職員全員で共有しケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・仕事は時間内処理が原則、残業はさせない ・新たに資格を取得した場合は、給与面に反映している ・風通しのよい何でも言える職場構築に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新入職員にはオリエンテーションによる指導又、内部研修へは経験年数に応じ全員が公平に参加できるように心がけている ・研修内容についてはミーティングで発表させ全員で共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会の会合はもとより地域での研究発表会等にも積極的に参加し知識を習得し利用者へのサービス向上に役立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人やご家族の要望等に良く耳を傾けて、本人が安心して過ごせるように、職員でも話し合いながら本人との信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前にもご家族と話し合い、要望等に良く耳を傾けて、連絡を取り合いながら信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の心身の状態観察、本人・ご家族の希望を聴いて、必要なサービスを職員間で話し合い自立に向けた支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・役割として協力して頂いたり、一緒に行ったり、利用者様から「ここはいつも一緒に家族と同じなものな」という言葉が聞かれます		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時や請求書送付の際に便りを入れて状態や受診状況を報告、ケースによっては本人の想いを伝える時もある ・ご家族と一緒に外出したり、面会が困難な時は電話での対応をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・震災前にお世話になった美容師がボランティアで行事に参加して頂いたり、髪の毛のカットをして頂いている ・仮設内の馴染の店へI/w買物に行く	避難後、毎年近くの教会の方がコーラスを聞かせに来てくれ、馴染みの関係が出来ている。コーラスの子供たちから手紙を貰うなど、利用者の楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様の状態によっては難しい時もあるが、席替えやおやつ後のレクリエーション等に、職員も一緒に参加し楽しめる様にしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・殆どが亡くなられた利用者様の為、葬儀に参列、必要に応じてご家族様と連絡を取り合っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	・一人ひとりの思いや希望を何気なく聴き、各ケース毎に記録し職員間で把握に努め、話し合ったり、ご家族様と相談をして協力を得て、できるだけ思いに寄り添う様に努めている、他に月1回ミーティングで担当者会議で意見を交換している	本人の思いや意向を受け止め、思いに沿ったケアにつなげている。思いを伝える事が困難な方には、話しかけを工夫したり身振り手振りで接し、思いを汲みとるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・担当ケアマネなどからの情報提供 ・実態調査表や本人やご家族、面会者から情報を得て把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・本人の意思を大切に日々の生活状態を観察し、職員間でも情報の交換をして残機能の把握をしているが、時を経てタイミングよく新しい発見をする事もある		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当職員がモニタリング、ケアプランの作成をし、毎月の担当者会議で全員で検討、状態に応じたプランの見直しをしている ・ご家族へもケアプランの変更時にはお話を伺い、必要時はケアプランへ反映させている	利用者一人ひとりがそのひとらしく暮らせるよう、個別の具体的な介護計画を作成している。状態の変化に応じて、医療機関と連携し見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・それぞれの目標や支援内容に応じた対応やケアについて記録し、それを基に実践や介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・常に変化に対し、柔軟に臨機応変に対応している、又、その様に対応する柔軟性が大切な事を認識し実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの受け入れ ・仮設内やひだまりのイベントへの参加 ・ルルド・アンサンブル合唱団の年2回訪問あり交流を楽しんでいます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・新たな協力病院もみつきり、現在は入居時に説明し承諾を得て定期的を受診、必要時は他病院を紹介して頂いた事もあります	避難後、かかりつけ医は協力医療機関に変わり、家族の要望があり受診は職員が同行している。受診結果は、家族に知らせ情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・管理者が看護師で、お互いに協力関係にあり、受診や急変に適切に対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院の際はホームからのサマリーを、退院時は病棟からサマリーを頂いています ・治療が終了し退院許可が出ればいつでも迎えに行く旨を伝えて頂いています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化、看取りについての指針作成、入居の際にも説明し、最近は同意書を頂いている ・実践したケースは職員間で話し合い、Dr、家族と3者で話し合いました(本人の意思表示困難)	重度化した場合は、その都度家族や医療機関と連携し、対応が出来るようにしている。終末期の対応について、看護師から話を聞くなど適切な対応が出来るようしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変への対応も経験され報・連・相が守られました ・事故の対応についても実際に経験したケース等を説明し職員の注意を喚起しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に数回、夜間想定避難訓練や通報訓練を実施 消防署立ち合い、絆職員の協力あり(消防署は年1回) ・仮設内の近くの方や絆に「受信機」を設置して頂いている	訓練後、消防署から防災カーテンにするようアドバイス貰っている。地域の方にチラシを配り、避難訓練に参加して貰えるよう呼びかけている。災害に備え、非常用食料等を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者様夫々の尊厳を守り、言葉使いも職員間でも気が付いた時は注意し合う	一人ひとりの思いや意向を大切に、接するようになっている。利用者同士でプライバシーを損ねるような場合は、間に入って話を聞いて雰囲気や和ませようとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・常に利用者様の思いや訴えに耳を傾け、できるだけ希望に添える様に努めている ・職員間でも情報を共有し、統一したケアに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々、利用者様の希望を尊重し、無理強いはしない様にしている ・本人・]ご家族の想いにギャップがある時あり、状態をみながら柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・好みやセンス、季節も考慮しながら対応しているが、利用者様によっては何回も着替えしたり、重ね着したりする方もおり助言に対し不機嫌になる事もあり、様子を見ている時もあります		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	・簡単な下ごしらえを手伝って頂き、職員も間に入り一緒に食べたり、食事に関するアンケートも実施しできるだけ要望を取り入れたいと思いました	利用者の好みを把握し、メニュー作りをしている。事業所や職員の畑で育てた野菜を使い調理をしている。職員が工夫して作ったお弁当を持って戸外に出かけ、雰囲気を変えて食欲が出るようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事や水分等の摂取量チェック ・刻み食やとろみをつけたりして個々に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後に嗽や義歯の洗浄を行っているが、ケースによっては声掛け、見守り等して出来る事はやって頂いている ・嗽のできない方は毎食後に口腔内の拭き取りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・入居時リハパンツを使用していたケースの3名がパンツに尿取りパットに変更し、排泄表を利用して、トイレでの排泄介助をしています	チェック表を用い、細めに声かけして適切な個別誘導を行い、トイレで排泄出来るようにしている。自立している人には、さりげなく見守り、安全に排泄出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の体操を実施、時々散歩 ・繊維の多い食物やヨーグルト等を献立に入れている ・入居前から殆どの方が下剤を服用され、コントロールしながら服用するケースもあり		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・3/wで4人、5人と分けて個浴を実施中 ・身体状況によっては複数対応で介助しています ・入浴を拒否される場合は無理強いしない又は、間をおいてから再度声掛けをする	利用者の希望する時間や、二人で入りたい要望に合わせて入浴出来るよう支援している。ゆず湯や入浴剤を活用し、季節を感じたり乾燥を防ぐなど、楽しんで入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・その時その時の心身の状態をみながら要望する場所(居室かフロアか)で休んで頂いている ・殆どの方が昼寝をされる ・休む時はお気に入りの毛布を常に掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方薬の説明書をファイルに、いつでも確認できる様にしている ・処方が変更になった場合は、変更理由、注意点など連絡帳で職員間に伝達		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・午前中は体操、午後はその日によって買物、ゲームや塗り絵等行っている ・できる方には手拭準備、お膳拭き、洗濯干し等やって頂いている ・行事ではアルコールも準備		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・以前は良く買い物や散歩を兼ねて仮設内外を散歩、加齢と共にドライブへ、3名の方はご家族との外出や外食を楽しんで頂いている ・1/月行事で外食や弁当持参でドライブ等も行っている	車や車椅子を利用し、戸外へ出かけられるよう積極的に支援している。遠方へ出かける時は、レクリエーション担当者が、トイレや休める場所等を事前に下見して、安全安心に外出できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・小遣いはホームで預かり管理 ・1/w仮設内商店へ買物、できる方は自分で支払って頂くが、以外は職員が支援 ・利用者様によっては自分でも小遣いとして持っている方もいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・難しい方が居る為、電話はご家族から来たという事にして取次ぎ話して頂いている ・手紙やハガキに関しては一緒に行き投函して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室やフロアの温度管理に気を配り過ぎしやすい環境づくりをしている ・フロアや玄関には利用者様と協力して季節ごとに張り絵等をして楽しんでいます ・利用者様によっては野の花を摘んでは季節感を楽しんでいます	手作りの作品や、絵手紙・行事の写真が飾られている。職員のアイディアで、手作りした足置きを使いテーブルで居心地良く過ごしている。感染症予防に温湿度の調整や、うがい手洗いを励行している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・常の観察でお互いが気持ちよく過ごせる様に必要に応じて席替えをしている ・難聴気味の方はテレビ近くに、車椅子の方は周囲を広く等考慮しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にしながら、本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	・避難後は馴染みの物は少なく、ご家族との写真が唯一の思い出の品で掲示しています ・一人の利用者様だけ、昔、自分で縫った洋服を職員が持ち出して手渡すと、大変喜び、苦労した昔話を聞かせたり、着用しては「これ、自分で縫ったんだ」と嬉しそうに話していました	自分の部屋がわかるよう入口に絵手紙やはり絵を飾り、プライバシーを大切にしながら安心して過ごせるようにしている。利用者と職員と一緒に衣替えをするなど整理整頓し、居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下には手摺がありそれを利用して安定した歩行を促しています ・居室前には名札、お風呂場やトイレにも表示して迷わず移動できるようにしている		